

薬局業務をトータルに効率化する 三菱保険薬局システム “Melphin/Neo”

近内 誠* 寺内直久**
大見由紀人*
大森智美*

“Melphin/Neo”: Pharmacy System Improving Business Efficiency

Makoto Konnai, Yukito Oomi, Tomomi Oomori, Naohisa Terauchi

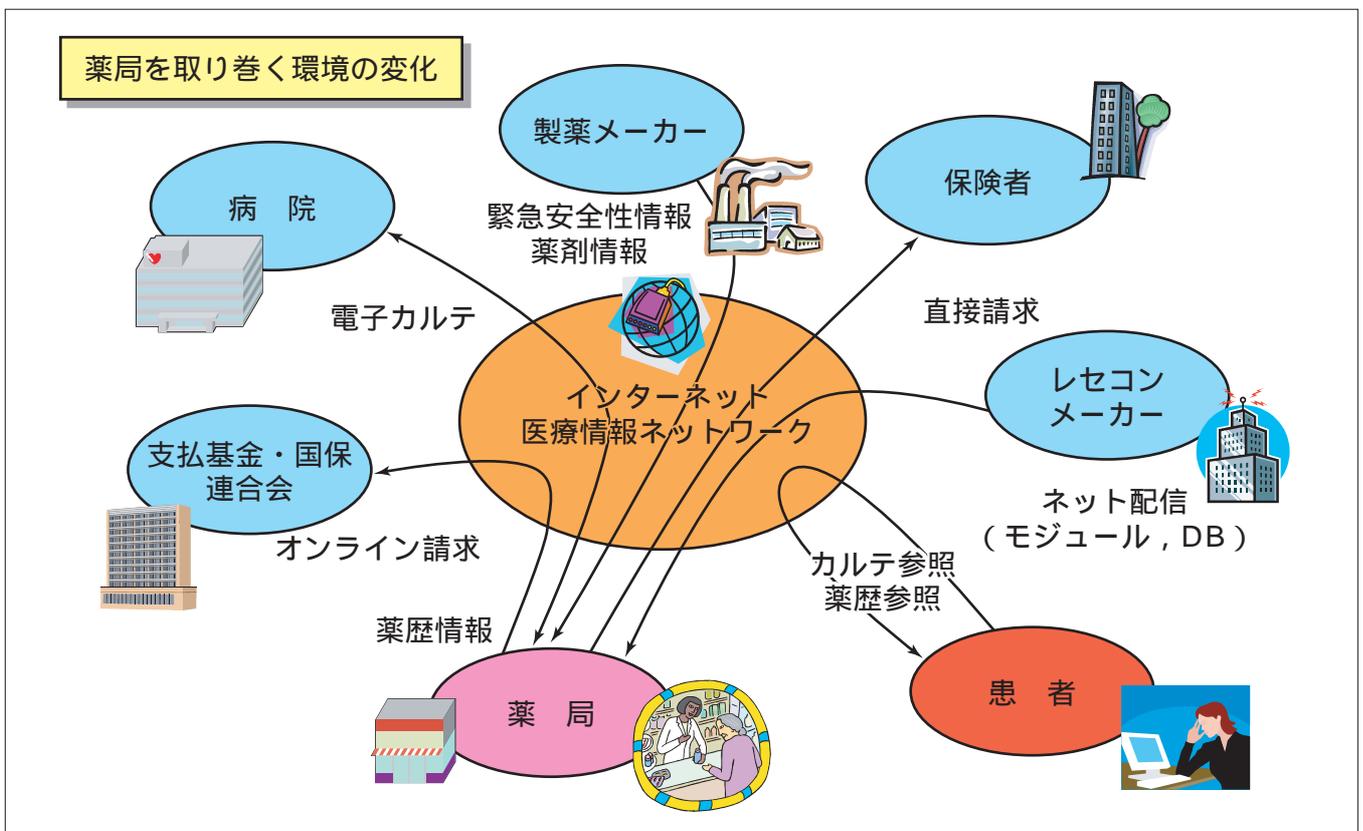
要 旨

三菱電機グループは、三菱保険薬局システム“調剤Melphin^(注1)”で20年以上にわたり、調剤薬局をサポートしてきた。現在では、全国でのシェア約17%で業界第3位に位置する。調剤薬局業界は、医療費削減を目的とした医薬分業政策に乗って、急成長を続けてきた。平成10年度には約30%だった分業率が、平成15年度には50%を超え、毎年1,000軒を超える調剤薬局がオープンしてきた。しかし、分業率が50%を超えたところで伸びは鈍化し、平成18年度の分業率は、55%程度にとどまっている。また、近年では少子高齢化社会における医療費削減政策によって、薬価差の圧縮や医療報酬引き下げなど、調剤薬局を取り巻く環境が変化している。三菱電機インフォメーションシステムズ

(株)MDIS)では、主力製品の“調剤Melphin/mk”，電子薬歴保存システム“Melhis”を全面的にリニューアルし、新たに“Melphin/Neo”を開発した。Melphin/Neoは、従来からの特長である、ユーザーインターフェースの簡便さ、薬の飲み合わせチェックなど、安全性確認機能に加え、インターネットでの情報取り込みなどのためにデータベースのセキュリティを強化した。さらに、画面・帳票のフリーレイアウト機能などで、ユーザーのニーズにこたえる製品とした。

また、経営分析機能も強化し、経営効率化に寄与するトータルシステムとして、Melphinは大きく生まれ変わった。

(注1) 調剤Melphinは、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)の登録商標である。



調剤薬局を取り巻くネットワーク環境の将来図

調剤薬局では、2007年4月から開始された支払基金・国保連合会へのWeb請求を皮切りに、インターネットへの接続が不可欠になる。ネットワークに接続することによって、製薬メーカーからの薬剤情報授受や、将来的には病院の電子カルテとも連携するなど、患者への情報提供サービスも当たり前になる。図中の“レセコン”は、レセプトを出力するコンピュータの意味で、主に医療機関における事務処理用コンピュータを指す。